

新高教第150回臨時県委員会のあいさつ

大型連休初日に急な機関会議の開催に対してご出席いただきまして感謝申し上げます。

この4月より吉田委員長に代わり執行委員長を務めさせていただくこととなりました遠藤と申します。

さて、新型肺炎の猛威が世界的に未だ収まらない中で、2月にロシアがウクライナに侵略戦争をしかけるという信じがたい出来事が起こり現在もまだその惨禍は継続中です。多くの子どもたちが犠牲になっているとの報道に心を痛めるばかりです。戦争は最大の人権侵害であり絶対に許されるものではありません。

この機に乗じて国内においては、戦争をできるようにするための憲法改正とエネルギーの安定確保のための原発再稼働を急がなければとの声が高まり、これまで営々と築き上げられてきた平和と民主主義が大きな危機に直面しています。

この危機的な状況で迎える5月の県知事選挙と7月の参議院選挙は私たちの将来をも左右する大変大事な選挙となります。

7月の参議院選挙についてはすでに1月の第149回定期県委員会で私たち新高教は、新潟選挙区に4期目の当選をめざす森ゆう子さん、比例代表に古賀ちかげさんの推薦を決定しました。

これに対して県知事選挙については、年明け以来、花角現職の再出馬濃厚の情勢の中で、野党・市民共闘からは有力な対抗馬が示されませんでした。そうした中、2月17日、「ロシアのウクライナ原発への攻撃・占領を見てやむにやまれず立候補表明した」のが片桐奈保美さんでした。片桐さんは、「安全な原発などあり得ない。子どもたちの未来に危険な原発を残すわけにはいかない」と東京電力柏刈原発、東北電力巻原発の建設反対運動に一貫して参加してきた筋金入りの闘士です。原発反対運動の情報ばかりが先行していますが、40歳で1級建築士の資格を取得し、50歳を過ぎてから新潟大学法学部で学ぶなどとても勉強熱心な方でもあります。兄と共同経営する住宅メーカーを県内有数の企業に育て上げ、お客様も社員も幸せにする経営を実践する一流の経営者でもあることから、県政の立て直しにあたる素質も十分だと考えられます。一方で、私たちに臨時削減を押しつけ、「県民の信を問う」との約束を反故にして原発再稼働に前のめりとなっている花角現職の支援はあり得ません。

以上の情勢を踏まえ、4月3日の本部執行委員会で片桐奈保美さんの推薦を決定し、このたびの臨時県委員会に提案させていただくこととなりました。

この間、新潟県におきましては、野党と市民の共闘によって国政選挙等で全国でも希少な成果を上げてきました。この勢いを参議院選挙につなげるためにも、5月12日告示、29日投開票が予定される県知事選挙への対応は大変重要です。

つきましては、このあとの会議で、本部提案に対する活発なご意見などいただき、新高教の県知事選挙方針を決定いただくよう、よろしく申し上げます。

2022年4月29日

新潟県高等学校教職員組合
執行委員長 遠藤 丞